

令和6年度 自己評価表

新居浜特別支援学校みしま分校
学校番号(54)

教育方針	1 生きる力を身に付けるために、学ぶ意欲・豊かな心・健やかな体をバランスよく育む。 2 「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「意欲・人間性」等の資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びを実践する。 3 一人一人がもつ可能性を伸ばすために、障がいの状態や発達等に応じた指導・支援の充実を図る。 4 自立と社会参加を実現するために、一人一人の学びの連続性の確保に努める。		重点目標	1 児童生徒にとって行きたい学校、楽しい学校を目指す。 2 お互いを認め、協力して活動し、自立を目指す児童生徒を育てる。 3 児童生徒一人一人のニーズに応じた目標を設定し、基礎・基本の定着を図る。 4 一人一人が生きて活動する授業実践を目指す。 5 特別支援学校としての地域におけるセンター的機能の充実に努める。	
	領域	評価項目		具体的目標	評価
学習指導	分かる・できる・考える授業の実践	○全ての授業で具体的なねらいを設定し、振り返りの機会を設ける。児童生徒が学習の見通しや課題意識をもち、主体的に学習に取り組む授業を行う。 ○各教科等合わせた指導では、各教科のバランスや体系的な指導を意識して学習を計画・実践する。	B	○授業で具体的なねらいを設定しICT機器を効果的に活用することで、児童生徒が学習の見通しや課題意識をもち落ち着いて学習に取り組むことができた。 ○生活単元学習の年間計画の活動内容に各教科等を記載することで、各教科の内容・目標を意識することができた。小学部と中学部1年で「学習内容表」を作成し、年間計画作成時等に活用するとともに、各教科を意識した指導実践することができた。	○今後も学習のねらいを明確にし、振り返りの方を工夫や質問の時間を設定し、児童生徒が「わかった!」できたと感じる授業実践に取り組む。児童生徒が課題意識をもち、より主体的に学習に取り組むための学習内容や支援方法、教材教具について工夫する。 ○生活単元学習内容表について、今後もアップデートし、年間指導計画モデル案として活用していく。学習指導要領に示されている各教科等の目標・内容を意識しながら、より効果的な指導方法を検討するとともに、系統性のある指導の充実に努める。
	教材・教具の工夫	○実践事例等の情報提供やICT活用に関する研修を3回以上実施し、新しくなったICT活用スキル達成度において全項目3以上の教員の割合を80%以上にする。	B	○ICT活用スキル向上を目指す研修を2回実施した。その結果、ICT活用スキル達成度において、全項目3.5以上を達成した教員の割合は96%となった。特に、ICTを活用した授業が増加し、授業内で積極的にデジタルツールを取り入れるようになっている。	○「生成AIのメリットやデメリットを理解し、校務や教材の素案作成等に活用できる」点については、「できる」の回答が65%と他の項目と比べて低かった。生成AIの活用方法の習得が十分ではなく、教員が積極的に活用するまでには至らなかった。今後は、生成AIを使った教材作成の効率化や支援ツールとしての活用方法を研修に盛り込み、教員の実践を促進していきたい。
特別活動	特別活動の充実	○学校行事を通して、異年齢の児童生徒同士で役割を分担して、一人一人が主体的に参加しやすい活動を計画する。全校児童生徒が主体的に挨拶運動に参加する。地域の人々々と交流を深めたり、社会性を養ったりする。	B	○児童生徒を中心に、朝の挨拶運動を実施した。児童生徒がオリジナルたすきを制作することで、挨拶運動に対する意欲を高め、積極的に取り組む姿が見られた。3学期からは、新生徒会役員で挨拶運動を実施した。三島小学校との交流では、互いの良さを知り、充実した活動ができた。	○今後も児童生徒一人一人が、積極的に挨拶を交わし合えるよう、挨拶運動の実施方法について工夫していきたい。にこわくポストには、児童生徒からたすきのメッセージが投函され、校内放送で紹介した。今後はにこわくポストを活用し、校内の友達や教員へ感謝の気持ちを届けられるよう工夫していきたい。
生徒指導	生徒指導の推進	○集団の一員であることを自覚し、約束やきまりを守り、みんなで協力し合って生活しようとする力を育てる。	B	○児童生徒が安心、安全に学校生活が送れるように、それぞれが発達段階に応じた交通安全教室を実施した。校外指導では、警察官から路政や横断歩道の渡り方を指導してもらった。大きな事故もなく過ごすことができた。	○交通安全教室は各学部で実施した。小学部では、愛媛県トラック協会のトラック体感授業を通して、交通安全について学習した。中学部では、四国中央警察署の警察官を招き講話、校外指導を行い交通ルールやマナーについて学習した。今後も、外部講師を活用し発達段階に応じた内容を計画していきたい。
	人権・同和教育の充実	○身近な人となかよく助け合い優しい気持ちや感謝の気持ちを育てるために、にこわくポストを活用する。保護者の意見を取り入れながら、参加しやすい校内研修を年2回実施する。	B	○いじめアンケート調査は、年2回実施し早期発見に努めた。人権だよりの発行を通して人権啓発を図った。校内研修では、外部講師による講演会や市主催の研修会に保護者や教職員が多数参加し、人権問題について学んだ。児童生徒からの呼び掛けにより、にこわくポストへの投稿が増えた。	○いじめアンケート調査の結果から、日頃から児童生徒のサインを見逃さずに丁寧に関わっていくことが重要と思われる。人権・同和教育研修を通して、教職員の人権意識を高めていく場としていきたい。また、教職員に対してヤングケアラーについての研修を実施した。今後も様々なテーマを取り上げ研修回数を増やしていきたい。にこわくポストの活用を通して、児童生徒が互いに良いところを見つけたら、感謝の気持ちを伝えたりできるよう工夫していきたい。
進路指導	キャリア教育の推進と充実	○キャリア教育推進連絡協議会の委員の助言を基にキャリア教育を実践する。保護者のニーズに応じた学校公開セミナーを実施し、全校児童生徒の3分の1の保護者の出席を目指す。	B	○学校訪問で、7つのキャリア教育の視点の取組を詳細に聞いた。早期からのキャリア教育を実践でき、特に地域の資源を生かした取り組みができた。学校公開セミナーは、当日は出席者が出たが、家庭数の3分の1の参加希望があった。	○引き続き、キャリア教育は学校生活全般で実践するものであることを教職員で共通理解し、早期からのキャリア教育を実践する。また、保護者へのキャリア教育や就労支援等の情報提供、理解啓発の充実に努め、進路希望調査の実施学年や形式、進路便りの内容等を検討する。
健康安全	保健教育の充実	○外部機関を活用した指導の機会を設けると共に、保健室と各学級が連携し、児童生徒が望ましい生活習慣や感染予防行動を身に付けられるようにする。	B	○歯科保健指導を外部講師を招いて行った。感染症対策や望ましい生活習慣の形成のため、それぞれが発達段階に応じた指導を行った。家庭とも連携して習慣化を図り、児童生徒の健康への関心が高まった。	○学校での集団指導、個別の支援は継続するとともに、保護者へ積極的に情報提供を行い、連携を強化する。また、保健所等外部の専門機関より直接指導を受ける機会を、引き続き設ける。
	安全教育の充実	○様々な場面を想定した避難訓練の実施を通して、児童生徒が自ら身を守る行動を身に付けられるようにする。非常時に備えた、備蓄を進める。	B	○防災避難訓練(水害)、不審者対応訓練を実施し、教職員間の共通理解を図った。三島小との合同避難(不審者)訓練を実施し、その後体育館にて警察官の方から講話をして頂くことで、児童生徒、教職員の身を守る行動や避難に対する意識が高まった。ポータブル電源、ランタンや簡易トイレも備蓄品として追加配備された。	○様々な場面を想定した避難訓練や自らの身の安全を確保する訓練を繰り返し行うことで、多くの児童生徒が安全に関する正しい行動を身に付けつつある。今後も継続して予備なし訓練や日常生活の中想定外の時間帯に訓練を実施するなど、児童生徒の安全を守れる学習内容を実施する。また、備蓄品においても今以上に充実を図ってきたい。
研修	授業力の向上	○全教職員が指導案を作成、実施し、自身の授業を振り返る。初任者研修やキャリアアップ研修1の研究授業及び授業研究会に一人2回以上参加し、授業力の向上を図る。	B	○学校訪問研修に向けて、全教職員が指導案の作成に携わり、一人一人の学習目標や支援方法についてじっくり考えたり、授業研究会で意見交換を行ったことで、授業の改善点や新たな気づきが多くあり授業力の向上に繋がった。	○引き続き、外部講師による研修や授業参観を効果的に実施し、より多角的な視点でのアドバイスを受ける機会を増やしたい。また、ICT活用事例等を積極的に提供し、授業力の向上につなげたい。
	専門性の向上	○「各教科を意識した授業」や「自立活動」についての研修を実施することで、専門性の向上につなげる。	B	○昨年度作成した「生活単元学習内容表」に今年度実施した授業を追記するようにした。単元名を入力する際に、各教科等のねらいを参照することで、各教科等との関連性を考えることに繋がっている。	○一般学級の「自立活動の時間における指導」の実施に向け、教員のニーズに応じた校内研修の内容を設定する。また、オンラインやオンデマンドの研修が増え、都合の良い時間に校外研修を受けられることが多くなっているため、それらを積極的に活用するよう呼び掛け、専門性の向上につなげたい。
	センター的機能の充実	○地域の園、学校、関係機関のニーズを聞き取り丁寧な対応を行う。コーディネーター同士で情報共有したり、研修を行ったして専門性を高める。	B	○地域の園、学校等のニーズに応じて教育相談等を行った。相談前に4名のコーディネーターで情報交換したり、支援の手立てを出し合ったりして、助言、提案の幅を広げたり、互いの専門性を高めたりした。また、いろいろな悩みや不安になって対応しようとして相談の進め方、相談者への寄り添いなどを互いに実践的に学ぶことができた。	○今後もコーディネーターで定期的に集まり、情報交換をしたり、互いの知識や経験を共有したりして専門性向上や後進の育成に努める。また、地域からの教育相談、研修依頼に柔軟かつ丁寧に対応し、地域の特別支援教育の充実に努める。
学校運営	P T A 活動の活性化	○PTAと学校が連携し、年間予定を基に活動を実施する。○座談会・奉仕活動・運動会・事業所等見学など、事前案内や活動後の情報発信を行い、PTA活動の活性化を図る。	B	○理事会の都合協議しながら、年間予定を基に連携してPTA活動を実施できた。毎活動後には、内容の情報発信を行った。○各活動後は、担当者が報告を行い、情報共有を図った。座談会では、今年度からアイスペイクや円座の形態を取り入れ、好評であった。事業所等見学も好評であった。	○今後もPTA活動が充実していくよう、理事会を中心に、様々な協議や情報共有、情報発信に努めていきたい。また、保護者が参加しやすい参加したい活動になるよう、各学年の理事さんを代表に、全校の思いを活動に取り入れていきたい。○情報発信については、理事会記録やホームページ、PTA通信で発信に努めている。今後も継続し、記録については、読みやすい発信になるよう振り仮名等の工夫も行っていきたい。
	経費の効率的な運用	○教育活動が円滑に進むよう、設備・物品の効果的な整備に取り組む。	A	○設備・備品の故障等については、速やかに修繕を実施し、教育活動に支障がないよう対応した。○要望により予算措置された備品については早期に購入を完了し、教育活動等に活用されている。	○希望がある物品・設備については、次年度当初予算編成として要求。緊急の対応が必要となった場合は、速やかに県教委と連携し、学校教育活動に支障がないよう取り組む。
業務改善	適切な勤務時間	○時間外勤務月45時間以内の教職員の割合、年間累計80%以上を目標に、やりがいのあるよりよい働き方の実現を図る。	A	○月により、一部長時間勤務の状況があるが、時間外勤務45時間以内の教職員の割合(4月～12月の累計)は92.4%で、目標達成を図れた。学校全体でペーパーレスや業務の効率化を意識した業務改善に取り組めた。	○年度始めや研修会前等、長時間勤務が続いている教員がいたので、業務分担の見直しや教職員間の協力体制、週1回のリフレッシュデーを継続する。また、基礎研修対象者や経験の浅い教員等の業務量や勤務時間に注意し、関係者と調整を行うなど、風通しのよい職場づくり、健康で充実した働き方になるよう、努めたい。

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:二応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかったとする。